

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 大里東 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

(2) 本校の学力調査結果の分析

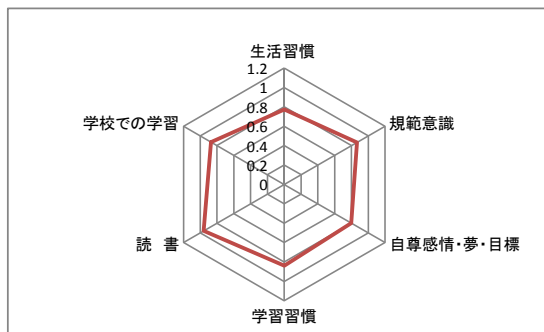
国語A	全体的な傾向や特徴など	本年度の本校平均正答率は、昨年度の正答率より4ポイント下回っていた。文章を読むことに慣れ、基本的な定着を図る必要がある。まずは、漢字の読み書き、ローマ字の練習等の基本的な学習を繰り返す必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	漢字を読んだり書いたりする問題の正答率が高かった。(貯金)	
	努力が必要な問題	ローマ字を読んだり書いたりする問題の無回答率が高かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	本年度の本校平均正答率は、昨年度の正答率より7ポイント下回っていた。A問題と同様に、書く力を問う問題に課題がある。書くことを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	将来になりたい職業について調べ、紹介する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	活動報告文を書く問題の正答率が低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	本年度の本校平均正答率は、昨年度の正答率よりやや下回っていた。四則計算の本校正答率は高かったが、割合の平均正答率は低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	四則計算の問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	百分率の問題の正答率が低かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	本年度の本校平均正答率は、昨年度の正答率より3ポイント下回っていた。解答が記述式である問題に課題がある。どのように書けばいいのかを教え、書いて説明することを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	きまりの発展的な考察の問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	日常生活の事象における数学的な表現の活用と解釈の問題の無回答率が高かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>○「学校の宿題をしている」児童の割合は9割を超えていたが、「自分で計画を立てて勉強している」児童の割合は4割程度であった。全校で家庭学習の時間の目安(10分×学年)を示したり、個に応じた家庭学習の量・内容・出し方を工夫したりすることで、家庭学習の習慣を定着させたい。</p> <p>○「自分には、よいところがあると思う」児童の割合は5割程度であった。自分に自信がなかったり、友達の目を気にしている児童が多いことも分かった。担任と児童の人間関係だけでなく、児童相互の人間関係にも目を向け、お互いを認め合う・支え合う学級づくりに努める必要がある。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ○授業の質を変える → わかる授業づくり5つのポイントの徹底・若年教員を中心とした校内研修の実施 ○読書タイムの質を変える → 時間いっぱい1冊の本を・活字に慣れ親しむように(学習漫画・図鑑は読まない) ○朝学習の質を変える → 火:漢字 水:書き書きまたは計算 木:MIM・ローマ字 金:音読暗唱 全校一斉実施
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ○宿題のスタンダード化 → 自主学習ノートの活用・「書く」ことを習慣化する内容(日記・今日の学習のふりかえり など) ○全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知 → 学校便りや学校HPで知らせる。 ○小中連携の学力向上の取組 → 中学校の定期考査前の時期に合わせて、家庭学習により一層取り組むように保護者に呼び掛ける。
--